「福井大学の国際交流とアジア協力」

福井大学学長　児嶋　眞平

福井大学は、3 学部 3 研究科と附属病院をもつ比較的小さい国立大学法人である。学生数は約 5,000 名、うち外国からの留学生は 228 名で、約 4.5%の留学生が学んでいる福井大学は、長年にわたり国際交流に積極的に取り組んできた。

学術交流協定を結んでいる大学は、現在 62。そのうち 41 大学がアジアの大学である。

中国からの留学生が 2/3、次いでマレーシア、韓国、バングラデシュと続く。

留学生のうち、日本政府の国費留学生は、わずか 10～12 名。近年、マレーシア政府派遣留学生（工学部）が急増している。また、私費留学生 126 名のうち大学院生が増えつつあるのは、アジア諸国、とりわけ中国が経済的に豊かになってきたからであり、非正規生が昨年度より急増したのは、入国検査が厳しくなったからである。また大学間交流協定に基づく短期留学プログラムと通常の交換留学生数も約 30 名を維持している。また、学術交流大学との研究者の交流も年々着実に増えてきている。

これら留学生を支援するのが、留学生センターで、専任教員 5 名を中心に、日本語教育、地域社会との交流、就職支援、国際交流ネットワーク構築、各国留学生同窓会支部組織結成、研修旅行、生活・進学相談、日本人学生の外国留学相談など多くの業務を行ってきた。

福井大学のアジア諸国との学術交流に取り組んでいる実例を以下に紹介したい。

まず、高エネルギー医学研究センターは、PET-CT など生体画像診断研究で、21 世紀 COE に認定されるほど最先端の医療研究を進めている。国際原子力機関（IAEA）の支援を得て、アジア 9 カ国 21 名の医師を招聘して、5 日間にわたり、画像診断技術を習得する研修会を開催した。さらに毎年、生体画像診断に関する国際ワークショップを福井市で開催してきた。また、分子イメージングアジアコンソーシアムを昨年結成した。

インドネシアのバンダアチェ市で高校の理科教員 60 人の参加を得て、香川教授は、Syiah Kuala 大学との共催で、昨秋「物理学教育ワークショップ」を開いて、身の回りにある材料を有効利用した物理実験法を教授した。ユネスコジャカルタ事務所の後援を得た。

アジアユネスコ文化協会（ACCU）の支援で、20 年以上学術交流を続けてきた西安理工大学の教員 5 名と大学院生 15 名を招いて、情報通信に関する学術交流会議を実施した。

福井大学工学部の機械工学専攻では、韓国の釜慶大学と毎年交互に学術交流を続けてきた。さらに 2 年前より、上海理工大学も参加して、毎年 3 大学が持ち回りで開催する学術交流会議に発展している。

以上のように、福井大学は、アジアとの交流に熱心に取り組んできた。今後、学生の交流だけでなく、国際共同研究を一段と推進して行くためには、国際水準の高い教育研究を維持し発展させていくことが必要であり、優秀な留学生を迎えたい。とりわけ福井大学の特色である原子力エネルギー安全工学専攻や、ファイバーアメニティ工学専攻、高エネルギー医学研究センターなどに、多くの留学生を迎え入れてアジアの発展に貢献したい。